

REDD と生物多様性保全の相関性に関するサイドイベント

Date and time : October 18th, 13:15 - 14:45 (Lunch time: buffet lunch services will be served)

Venue: Room 233B - Bldg 2 - 3rd Floor

名古屋国際会議場 〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

Nagoya Congress Center (NCC)

1-1 Atsuta-nishimachi, Atsuta-ku

Nagoya, Aichi Prefecture

456-0036, Japan

Tel: +81-52-683-7711

Fax: +81-52-683-7777

Web site: <http://www.nagoya-congress-center.jp>

2013 年以降の温室効果ガス削減手段として途上国における森林減少・劣化の防止による排出削減対策（以下 REDD）が提唱され、途上国が温暖化対策として取り組める最も効果的な排出源削減活動として期待されている。現在 REDD の対象としてされているのは森林減少や森林劣化が著しい熱帯域であるが、この地域には地球上で最も生物多様性の高い森林（＝熱帯林）が分布する。また熱帯林は地上の炭素のストック量の高い森林でもある。確かに森林減少や劣化を防ぐだけならば、「緑の面積」をへらさないという努力だけでも十分足りるが、それでは健全な熱帯林やそこから得られる様々な生態系サービスを完全に担保したことにはならない。そこで REDD の主眼である排出源抑止（＝面積減少、劣化防止）に加え、生物多様性や炭素ストック量などの生態系サービスの保全や回復を配慮した REDD plus というメカニズムが提唱されている。とはいえ、REDD によるクレジットが発生したとしても、森林管理や保全に多くのコストがかかってしまつては、森林減少・劣化防止策へのインセンティブが湧いてこない。そこで森林劣化防止の努力によって生物多様性保全などの生態系サービスがどの程度向上するかを定量的に評価する必要がある。すなわち、REDD plus を実施するに当たっては、生物多様性などの向上などによるクレジットの付加価値をどう評価するかがこのメカニズムの正否の鍵を握っているといえる。そのためにはまず森林生態系における生物多様性と生産性との関連性、森林生態系における多様性評価を簡便に行うための指標づくりなどの調査、およびそれらの汎用性についての検討・検証を早急に開始する必要がある。

REDD は近年急速に感心が高まりつつあるテーマであるが、こうした基盤固め抜きにメカニズムのみが先行し、クレジットの取引だけに感心が向けられると、森林劣化や減少の防止どころか対象国の社会や生態系の秩序をかえつて混乱させる可能性さえもある。本サイドイベントでは、まず熱帯林とそれを取り巻く地域環境の特性についての知見のおさらいをしながら、今後どのような課題があるのか、また REDD の改良策としてどのような手

法が考えられるのかという点について議論を行いたいと考えている。

話題提供者：Guest speakers

- Ferry Slik (Xishuangbanna Tropical Botanical Garden, Menglun, Yunnan, China) “Tropical Forest Biodiversity and Conservation in Asia: New Developments in a Time of Crisis”
- Imam Basuki (Center for International Forestry Research, Bogor, Indonesia) “Local People’s Priorities for Tropical Forest Biodiversity and Why They Matter”
- Takashi Kohyama (Hokkaido University): “Time-Scale Mismatch between Productivity, Biomass and Biodiversity: Towards Better Evaluation of Forest Ecosystems”
- Matthew D. Potts (University of California, Berkeley, CA USA) “Best Practices for Biodiversity Assessments in Tropical Forests”

コメンテーター

- Suneetha Mazhenchery Subramanian (United Nations University-Institute of Advanced Studies, Yokohama)

企画立案者・責任者

- Toshinori Okuda (Hiroshima University)
- Toshihiro Yamada (Hiroshima University)